



住吉っさん

住吉大社のある暮らし sumiyosan vol.25



平成27年(2015)12月1日発行(年2回発行) 発行人 高井道弘 発行 住吉大社 住所 大阪市住吉区住吉2丁目9番89号 Tel 06-6672-0753 印刷 真生印刷株式会社



日本の伝統
花嫁の正統。

 住吉大社吉祥殿

Tel 06-6675-3591 fax 06-6675-3311
URL <http://www.sumiyoshitaisha.com>
〒558-0045 大阪市住吉区住吉 2-9-89
住吉大社吉祥殿まで (水曜日休日)

南手水舎解体修理工事を終えて

株式会社 瀧川寺社建築 代表取締役 瀧川 伸

ご縁あって、重要文化財 瀧川寺社西門に続き、南手水舎の解体修理工事に携わることが出来ました事、光栄に思います。

南手水舎は「神社明細帳」によれば寛政三年（1791）五月再建とあり、境内の南手水舎のなかで最古のものです。元々は本宮西小門の外、南脇に有りましたが昭和34年の拡張により現在の位置に移動されました。

構造形式は桁行一間（3.68m）、梁行一間（2.65m）、入母屋造、本瓦葺、石畳上に礎石・礎盤を重ねて四本の柱が立てられます。内法貫位置で虹梁を繋ぎ、各柱は大斗を置かず、桁まで伸ばし、肘木は柱に差し込む形式です。江戸時代のこの頃より化粧の組物や軒廻りを積み上げるのではなく、柱・梁を構築してからそれらを貼り付ける事が多くなります。

この手水舎もこの手法で、垂木は禅宗用形式の二軒、扇垂木で、化粧隅木・化粧垂木は桁位置で止まっており、小屋組から伸びる梁と枯木に吊り込まれる形式で、今回それらがごとく外れたために、軒廻り、特に化粧垂木に破損が多く見られたものと思われまます。



解体修理工事の手順はまずは目視で破損調査を行い第一段階として修理の工法を計画します。工事の着手後、足場を架け、建物を建てる順番と真逆に解体してゆきます。この時が我々修理技術者にとって一番大切な所です。実測調査と破損調査を綿



密に行い、破損部分については何故そうなったかを原因究明して行きます。そして修理方針をもう一度検討し、補足する部材の数量、工法を決定致します。



南手水舎の四本の柱は、四角形の礎石に石製礎盤を重ねて立てられています。その内三ヶ所で礎盤が割れ、非常に危険な状態でした。これは昭和34年移築時、地震による引き抜きに抵抗するために入れられた鉄製アンカーボルトが腐食・膨張したものと判明しました。

今回の修理に於いては基礎の鉄筋を細かくダブルに配筋したマットスラブ（いわゆるベタ基礎）に銅製アンカー（特別注文品）を入れて、経年による腐食・膨張防止とし、また地震時の動きに対する追従性を考慮して、柱にあえて緊結せずに設置しました。小屋組では補強材を増やす事により、軒廻り化粧材を吊り上げる位置を増やして加重負担を分散しております。



屋根瓦は全体的に焼成温度の低い瓦が始どで、日当たりの良い南面に再利用可能な平・丸瓦、軒平・丸瓦を葺き、それ以外はすべて新調、空葺工法（土を乗せない工法）で葺きあげ、棟積には小菊紋を組ませ、格調高いものとさせて頂きました。



昨年末から半年に及んだ工事も6月2日に竣工報告祭を迎える事が出来、無事終了致しました。
伝統的木造建造物を保存し、活用していくには、変えてはならない基軸となる技術や工法があります。ですが一方では先人の技術を読みとり、不足分を補う為に新しいものを取り入れ革新を加えてゆかなければ守っていけない事も事実です。これからは「不易流行」の精神で、住吉さんの境内建物の維持管理に貢献できる事を願います。

